

緊迫する世界



川上高司
★★★4

ドナルド・トランプ米大統領の頭の中を占めているのは、来年の大統領選挙だ。勝利するためには、好景気の維持が重要だ。中国には新冷戦を仕掛けたが、返り血を浴び、米国の景気に暗雲が立ちこめてきた。このままでは、大統領選挙が危ないのでディール（取引）が必要だ。

そのため、トランプ氏は、強硬派のジョン・ボルトン米大統領補佐官（国家安全保障問題担当）をホワイトハウスから追い出し、ディールの態勢を整えた。

そして、親中派のステイブン・ムニューシン財務長官らの出番である。トランプ氏は早速、2500億ドル（約27兆円）分の中国製品への制裁関税拡大を10月15日まで延期した。中国との「暫定合意」

プーチン氏（右）と習近平氏は、トランプ氏（円内）の本音を見透かしているのか（タス＝共同）



フリカに拡大し、軍事的にも優勢を狙っている。

一方、米中貿易戦争による共倒れ状況を、ほくそ笑みながら見ているのがロシアのウラジーミル・プーチン大統領だ。

まず、プーチン氏は6月、中国の習近平国家主席とモスクワで会談し、米国やその同盟国から閉め出される中国通信機器大手「華為技術（ファーウェイ）」製品をロシアで受け入れ、中国と軍事協力の進展を図った。

プーチン氏はその後、インドに接近した。米国とインドの関税戦争をみて、9月4日、極東ウラジオストクでナレンドラ・モディ首相を迎えた。

インドは、ロシア兵器の最大の顧客で、保有兵器の6割はロシア製だ。両国は兵器部品の共同生産を合意した。インドはまた、米国からイランの石油を輸入しないよう迫られている。その代替を

ロシアの石油、天然ガスに求めた。

プーチン氏は続いて16日、トルコの首都アンカラで、トルコのレジェプ・ターイプ・エルドアン大統領、イランのハサン・ロウハニ大統領と「アスタナ会議」を開いた。シリア内戦終結の取り組みを確認し、中東でのキングメーカーとしての役割を鼓舞した。

米国と対立するイラン、トルコ、インドと手を取り合い、イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相には恩を売ってコントロールする。ロシアの防空システムは今や、シリア、イラン、トルコを網羅した。防衛ラインはロシアの国境のはるか南に下がったのである。

イランやアサド政権打倒を訴えるボルトン氏はもういない。プーチン氏は「ペーパー・タイガー（張り子の虎）」に成り果てた米国の足下をみて、ロシアの「地政学の完成」を着々と行動に移している。

をほのめかしながら、19日からの米中次官級協議で、来月の閣僚級協議に臨む。しかし、米議会をはじめとする対中強硬派の狙いは、中ルートとを、ヨーロッパからア

張り子の虎となった米国

ほくそ笑むプーチンと習近平

（拓殖大学海外事情研究所 長）
おわり
【5、32面に関連記事】